（別添）令和５年度「令和の里海づくり」モデル事業　実施団体一覧

活動場所	実施団体	事業概要
荒川下流域（江戸川区、江東区）	特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	生物多様性の保全に向けた東京湾の泥干潟保全活動、モニタリング調査
福井県福井市	サカイオーベックス株式会社	海藻などの海洋資源を利用した里海染め体験、連携体制づくり
大阪府大阪市及び堺市	大阪府	大阪・関西万博の会場が面する大阪湾奥部における生き物と触れ合える場の創出と利活用の推進
和歌山県田辺市	新庄漁業協同組合	特産品であるヒロメに関する取組を中心とした里海づくりの規模拡大
兵庫県南あわじ市	一般社団法人 スマートな島ぐらし推進協議会【くにうみの里海プロジェクト】	地域を担う次世代の子どもたちの参画によるアマモ場の再生及び連携体制の構築
岡山県備前市、岡山市	岡山水産物流通促進協議会	豊かな水産物の食文化を持つ岡山の魅力発信のためのエコツアーの実施、プロモーション
岡山県備前市	一般社団法人みんなでびぜん	アマモ場再生活動に資する海洋学習プログラムの充実、未利用・低利用魚の商品開発
広島県尾道市	尾道東部漁業協同組合	アサリ再生活動を契機とする「里海」・松永湾の再生・利活用に向けたバージョンアッププロジェクト
山口県防府市	防府市藻場造成による豊かな里海づくり協議会	里海における藻場造成とアイゴ等の「磯焼け」対策&商品化による循環型経済の仕組みづくり
高知県大月町	おおつき里海づくり協議会	持続可能な里海づくりにむけた藻場再生と地域資源の好循環形成、都市部への発信
福岡県宗像市	宗像市	宗像沿岸域における藻場創出実証試験とブルーカーボンクレジットによる好循環形成の検討
長崎県対馬市	特定非営利活動法人 賀谷藻場保全会	水循環の回復による藻場再生と普及啓発・産品販売の仕組みづくり

令和の里海づくり

NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム

生物多様性の保全に向けた東京湾の泥干潟保全活動、モニタリング調査

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

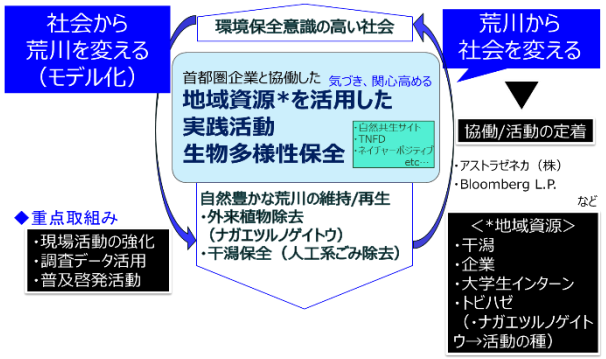
【資源】

- 東京湾から姿を消し、その後復活したトビハゼの他、干潟に生息するカニ類、貝類などの干潟特有の生態系や野鳥など
- 東京都心の水辺空間として、近隣住民の憩いの場

【課題】

- 下流域に多くの河川・海洋ごみが漂着する問題や、干潟の希少な生態系について、地域住民や流域企業の理解は不十分であり、保全活動への参加や継続性にも課題
- 特定外来生物（ナガエツルノゲイトウ等）の急速な繁茂

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

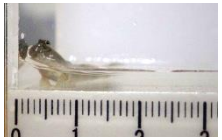


荒川下流
東京都江戸川区

R5年度モデル事業における取組内容および成果

泥干潟のモニタリング

- 泥干潟のモニタリング調査としてトビハゼの巣穴数や幼魚数等を確認



【成果】

今後保全活動を継続する上での基礎データが収集できた。

特定外来生物分布調査

- Google Photoを活用し河川管理者等と生育場所を共有

【成果】

ナガエツルノゲイトウやアレチウリの分布を即時共有することができ、各主体における対応策の検討に役立った。

泥干潟の生態系の活用・発信

- トビハゼ等の資源活用方策を検討し、清掃・保全イベントの実施や、生態系の紹介動画の制作を実施

【成果】

今後新たな事業を展開する際の連携先の発掘や、泥干潟の生態系にかかる情報発信を行うことができた。

将来の活動の担い手育成

- インターンシップ生の受入や大学講義との連携

【成果】

中長期のインターンシップ生や講義と連携したプロジェクト参画を継続受入することで、活動の波及が期待される。

今後の課題および取組方針

- 上記の活動を継続し、さらに地域で培われてきた里海づくり・海洋教育の知見・ノウハウを継承しながらさらに発展させていく。
- 活動原資（資金・担い手）を確保するための商品・サービスや仕組みづくりにさらに注力していく必要がある。

令和の里海づくり

サカイオーベックス株式会社

海藻などの海洋資源を利用した里海染め体験、連携体制づくり

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

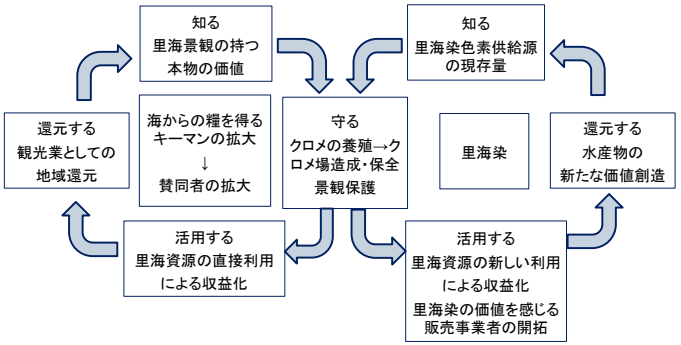
環境省

地域の概要及び課題

【資源】
- アワビやサザエなどの磯根の漁業資源が豊富
- 周辺海域で漁獲される越前ガニと、これを提供する飲食店・宿泊施設及び関連する観光事業者が存在
- 四季折々の表情を見せる海と、海に沈む夕日

【課題】
- 漁業従事者や「海の使い方」を理解している住民の減少
- 漁業資源の豊富な海の開放への抵抗感や、藻場の必要性の認識不足から、資源の活用や漁業者との協働に障壁

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン



越前海岸
福井県福井市

R5年度モデル事業における取組内容および成果

地域内連携体制の構築

- 地域内連携体制の構築に向け、越前海岸盛り上げ隊等との意見交換を実施

【成果】

今後里海染めの体験イベントやクロメ養殖に関与する可能性のある人と関係構築することができた。

里海染め商品の開発

- 様々な主体と意見交換をして検討した上で、コースターもしくは体験キットとしての里海染め商品を開発

【成果】

デザイン面の工夫や染色堅牢度試験などにより、製品化に資する商品開発ができた。

里海染め体験イベントの開発

- 子供向けの体験イベント等を10回程度開催し、イベント運営方法について試行錯誤を重ねた

【成果】

イベントの流れや用いる器具などについても改善を重ね、より効率的な運営が可能になった。

藻場造成も見据えたクロメ養殖試験

- 事業期間中に収穫には至らないが、クロメの養殖試験として、クロメの苗を製作し、養殖試験を実施。

【成果】

事業期間内は順調に伸長し、今後の増殖についても取り組める可能性が示唆された。

今後の課題および取組方針

- 里海染めについて、他の里海にまつわる染料の検証やオペレーションに関わる人材の育成を行い、地域の体験コンテンツとしてさらなる活用を図る。
- クロメ養殖や、藻場造成に関わる地域やキーパーソンを増やし、地域の里海環境の保全を行っていく必要がある。

令和の里海づくり

大阪府

大阪湾奥部における生き物と触れ合える場の創出と利活用の推進

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

【資源】
- 大阪湾奥部は、埋め立て地の造成等が多く、自然の藻場・干潟等はほとんどない
- 人工海浜や海とのふれあい広場などが整備され、憩いの場として活用されているところもある（散歩、釣り、ドッグラン等）

【課題】
- 海と触れあう場や藻場・干潟の再生・創出が必要
- 府民や企業等による大阪湾の里海づくりへの参加や認識・理解醸成が必要

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

仕掛設置等による生物生息空間の創出

活動を応援・参画するステークホルダー確保・連携

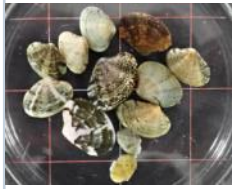
周辺住民や企業等の理解醸成・活動に関わってもらうきっかけづくり

大阪湾奥部
大阪府大阪市/堺市

R5年度モデル事業における取組内容および成果

【堺泉北港南泊地】里海づくり拠点形成・生物生息環境調査

- 大学連携による潮だまりや網袋設置による生物生息空間の創出・生物生息環境の調査



【成果】

ヤドカリ・カニなどの甲殻類やアサリなどの貝類の生き物の生息場としての機能が確認された。

【堺泉北港南泊地】ワークショップ（将来像の検討）

- 形成した拠点における今後の連携や活用の検討

【成果】

大学や漁業者等との連携体制を構築し今後の活用に関する議論や拠点活用に関する将来像を作成した。

【大阪港天保山周辺】護岸の仕掛設置・生物調査

- 中高生・水族館と連携した仕掛設置による生物生息空間の創出

【成果】

タケノコメバル、イシガニ、フジツボ、ホヤやウミウシなどが見られ、生物生息場としての機能が確認された。仕掛けの形状により定着する生物の傾向が異なることも考察された。

【大阪港天保山周辺】生き物観察会・情報発信

- 設置した仕掛けの生物観察会
- 活動内容のパネル・動画の作成・展示

【成果】

観察会や水族館での展示により、大阪湾に豊かな生物が生息していることなどの理解促進につながった。

今後の課題および取組方針

- 堺泉北港南泊地では、成果が見られた生き物の生息環境改善の取組を継続するとともに、企業所有護岸で囲われている場所で活動しているため、里海づくりの活性化に向けてアクセス性の改善を検討していく。
- 大阪港天保山周辺では、仕掛けを設置した護岸が海遊館から少し離れた場所にあるため、海遊館の来場者に対して天保山周辺護岸の水中の状況や得られた生物の展示等、より身近に感じられる展示手法を検討する。

令和の里海づくり

新庄漁業協同組合

ヒロメ養殖による環境保全と地域振興の循環モデル形成

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

【資源】
- 吉野熊野国立公園（鳥ノ巣半島の自然景観）
- 沿岸の黒潮の影響を受けた多種多様な海洋生物
- 田辺湾の春の特産物であるヒロメとヒロメを活用した独自の食文化（ヒロメのしゃぶしゃぶ、ひとはめ寿司等）

【課題】
- 漁業者の高齢化と担い手不足
- 地域の魅力向上
- ヒロメの養殖用種苗の生育不良・食害

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

- 自然共生サイト登録による地域資源の認知度向上
- ヒロメの商品開発による市場拡大
- ヒロメの種苗生産の実施と養殖拡大
- ブルーカーボンクレジットによる活動資金確保
- 民間企業との連携によるエコツアー等の開発と関係人口の拡大

R5年度モデル事業における取組内容および成果

ヒロメ養殖の拡大と藻場造成

- ヒロメの種苗生産と養殖の実施

【成果】

複数の種苗生産の方法を検討し、種糸を作成した。また、生産量向上を目指して新たな養殖方法を検討し、生長を確認した。さらに、藻場造成場所を検討するため、天然ヒロメの分布場所の磯焼け場所を把握した。

自然資源の実施

- 新庄の海の全域を対象とした生物相調査

【成果】

ヒロメやアマモ、ウミヒルモなどの藻場やサンゴ類、多様な魚類やエビ・カニ類等様々な種が生息していることが確認でき、自然共生サイトの認定基準を満たす価値があることを確認した。

エコツアー開発とPR活動

- 里海を活かしたエコツアー開発
- シンポジウム等の実施と普及啓発ツールの作成

【成果】

エコツアーとして自然観察会のほか、漁業体験や保全活動体験を試行し、新たなコンテンツの開発ができた。また、多様な主体と連携した取組の体制構築ができた。

好循環形成ビジョン検討

- 連携体制の拡大

【成果】

取組の継続・拡大を目指して、エコツアーや情報発信を通して様々な企業や自治体、教育機関等と意見交換を行い、連携を深めることができた。

今後の課題および取組方針

- 新たな連携体制（博物館、大学、民間企業等）の構築による取組の拡大によって、担い手や活動資金の確保につなげる。
- ブルーカーボンの活用について、養殖ヒロメの残置に限らず、藻場（ヒジキ等）・アマモ場の保全等も合わせた取組として、民間企業との連携も視野に検討。

令和の里海づくり

一般社団法人スマートな島ぐらし推進協議会

地域を担う次世代の子どもたちの参画によるアマモ場の再生及び連携体制の構築

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

【資源】
- 福良湾の美しい自然環境によるトラフグやサクラマス等がブランドであり、南あわじ市沿岸部では、ノリ・ワカメの養殖を実施
- 南部には、観光名所（鳴門海峡）が存在

【課題】
- 磯焼けの進行による藻場の減少や漁業者の担い手不足
- アマモ移植技術等の専門知識不足や地域内連携体制の構築が必要

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

- 活動の発信による理解醸成
- 大学・民間企業と連携した藻場保全
- 次世代を担う子供達への環境教育を通じた意識醸成
- ブルーカーボンクレジットや自然共生サイト認定による活動資金確保
- 住民や周辺企業、漁業者の理解醸成・活動に関わってもらうきっかけづくり

淡路島
兵庫県南あわじ市

R5年度モデル事業における取組内容および成果

藻場再生のためのアマモ移植

- 藻場再生のためのアマモ移植の実施

【成果】
漁業者、地域小学生との連携によりアマモの株移植を実施。移植1か月後のモニタリング調査では、アマモの生育が確認された。

ワークショップの実施

- 小学生を対象にしたワークショップを実施

【成果】
小学生を対象としたワークショップを通じて、子供達にアマモ場の重要性や地域の自然を大切にする気持ちの醸成につながった。

ウェブサイトの構築

- 取組の情報発信のためのウェブサイトの構築

【成果】
ウェブサイトにおいてワークショップの開催案内や実施報告等の情報発信が可能となり、取組を実施するにあたっての情報発信・共有の場が構築された。

好循環形成ビジョン検討

- ブルーカーボンネットワークの構築

気候変動 × 漁業 × 観光 × 環境教育

【成果】
行政、漁協、学識者等のネットワークの構築により、情報共有をするとともに今後の取組の展開について議論がなされた。

今後の課題および取組方針

- ワークショップ等の環境学習については、今後、大学連携も視野に入れて、検討・連携体制を構築していく。
- 活動の継続にあたって、活動場所の調整に課題があるため、今後は他海域への展開も視野に検討していく。

令和の里海づくり

岡山水産物流通促進協議会

学び・体験・食を通じた岡山の里海づくりと低・未利用「地魚」の流通・消費促進

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

【資源】
- 岡山ならではの豊かな魚食文化（ヒラ、ママカリ、ハモ、ベイカ等）や漁業景観（虫明湾のカキ筏、牛窓湾の段々畑とつぼ網漁、児島湾の水田と四つ手網漁）が形成

【課題】
- 藻場・干潟の減少
- 岡山独自の魚食文化の継承
- 低・未利用魚の消費の減少による、供給と流通の停滞

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

- 地域と連携した藻場再生保全
- 低・未利用魚に関する出前授業等の実施による理解醸成
- ツアーやお惣菜の商品化を通じた活動の収入源確保
- 住民や子供達の理解醸成・活動に関わってもらうきっかけづくり

岡山県内沿岸エリア
岡山県

R5年度モデル事業における取組内容および成果

エコツアーの実施

- 一般向け「来て！見て！食べて！恵み豊かな瀬戸内海を学ぶ旅」のエコツアーの実施

【成果】

エコツアーの予算や内容について、今後の自走化に向けた課題を把握することができた。開催したツアーは、参加者の満足度も高く、大好評であった。

商品開発

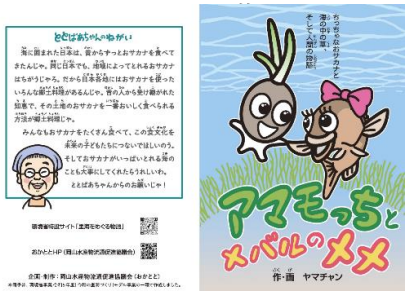
- 低・未利用の「地魚」を活用したお惣菜のレシピ開発

【成果】

開発した20種類のお惣菜について商店での販売につながった。今後は、料理店にレシピを共有するといった展開を検討している。

普及啓発ツール制作

- 藻場の保全・再生活動と低・未利用魚との繋がりに関する普及啓発



【成果】

藻場から食への繋がりがわかる小冊子により、理解促進につながった。

好循環形成ビジョン検討

- エコツアーの改善や普及啓発ツールの活用における関係者協議

【成果】

関係者と協議によりエコツアーの内容や普及啓発ツールの活用に関する課題や展開の方向性が整理された。

今後の課題および取組方針

- エコツアーの自走化に向けて、持続的に実施できる体制を構築するとともに、ツアーや体験、低・未利用「地魚」を使用したお惣菜の収益を藻場保全活動に循環させる仕組みを構築・実施していく。
- 制作した普及啓発ツールを活用し、学校への出前講座の実施等の展開を図る。

令和の里海づくり

一般社団法人みんなでびぜん

海洋学習プログラムの拡充と未利用・低利用魚の商品開発を通じた里山・里海・まちの好循環交流拠点づくり

令和５年度「令和の里海づくり」モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

【資源】

- 地域が一体となった里海づくり活動の結果、約250haのアマモ場が再生
- 2021年より「ひなせうみラボ」を拠点とし、里海づくり活動の拡大や教育に関する取組をスタート

【課題】

- 里海づくりに取り組んできた主体の活動を継承する体制や仕組みを整える必要性
- チヌ等による漁業資源の食害など、新たな課題が発生

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

里海保全活動

海洋教育プログラムによる担い手の裾野拡大

商品・サービスを購入する来訪者増加・関係人口の拡大

食害魚・低利用魚の販売収益

ツアーや研修の受け入れによる収益

R5年度モデル事業における取組内容および成果

海洋学習プログラムの実施

- プログラムの磨き上げ、受入対象の拡大、実施主体の拡大および人材育成等を試行

【成果】

受入対象からフィードバックによって、プログラムの磨き上げにつながるとともに、教育現場からの新たなニーズを把握できた。受入対象の拡大およびプログラム実施体制の拡張につながった。

里海づくり紹介媒体の作成

- 日生の里海づくりや「ひなせうみラボ」を紹介する媒体（動画、パネル、リーフレット）を作成

【成果】

里海の成り立ち、里海づくりの意義や効果等を分かりやすく解説する媒体を作成し、海洋学習プログラムの効果向上や、里海の普及啓発するためのツールを整えることができた。

チヌ（クロダイ）等の商品開発

- 地域で漁獲された食害魚や、低利用魚を活用した料理メニューや加工品の商品開発

【成果】

チヌや未利用魚を使用した料理メニューや商品を開発し、販売することができた。また、今後、食を通じて来訪者に里海づくりを学んでいただくための素材として活用することが可能になった。

今後の課題および取組方針

- 上記の活動を継続し、さらに地域で培われてきた里海づくり・海洋教育の知見・ノウハウを継承しながらさらに発展させていく。
- 活動原資（資金・担い手）を確保するための商品・サービスや仕組みづくりにさらに注力していく必要がある。

令和の里海づくり

尾道東部漁業協同組合

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

環境省

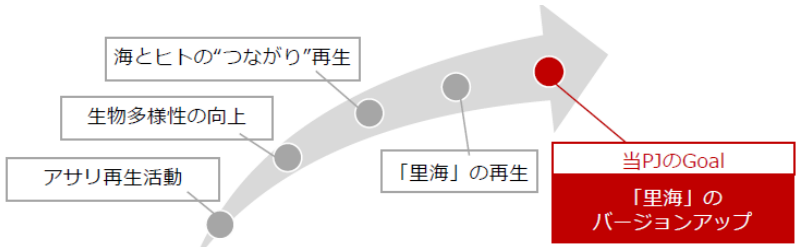
アサリ再生活動を契機とする「里海」・松永湾の再生・利活用に向けたバージョンアッププロジェクト

地域の概要及び課題

【資源】
- 古くから塩田として開発され、製塩業衰退後も塩田跡地にアサリをはじめ多くの生物が生息する豊かな生態系を形成
- 尾道東部漁業協同組合は多様な水産資源を管理し、地域住民も日常的に食糧採取の場として松永湾を利活用

【課題】
- 宅地造成等による水質悪化、気候変動に伴う水温上昇で特産のアサリをはじめとした生物多様性が減衰
- 漁業者や住民のつながりも希薄となり里海機能も減衰

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン



松永湾
広島県尾道市

R5年度モデル事業における取組内容および成果

アサリ再生サイト造成・再生活動の実施

- アサリ再生サイト造成・再生活動の実施
- 尾道海の豊かさ共同セミナーの企画・開催
- 地元の小学校への出前授業、アサリ造成体験
- SNSを活用した情報発信　など

アサリ再生活動の様子

小学校での出前事業

尾道海の豊かさ共同セミナー

【成果】
・アサリの漁獲量2トンの目標を概ね達成見込み（2024年3月に確認）。
・関与人数50人の目標に対して活動等への参加者は合計83名で達成。

ブルーカーボン事業の検討

- アサリをはじめとした生物の生息状況調査を実施。小学生に松永湾の実態に触れる機会を提供。

【成果】
干潟の生物調査により、本事業実施以前より生物種も増加し、生物多様性の回復に寄与。地域住民にも干潟再生取組や成果を示すことができた。

エコツーリズムの検討

- 尾道観光協会と連携したエコツーリズム商品の検討（検討会開催）

【成果】
観光協会と連携したイベント等を検討し「尾道あさり復活祭」を開催する方向で合意（2024年3月頃にアサリ漁獲量の調査を行った上で判断）。

今後の課題および取組方針

- 地元住民の関与が限定的であったため、今後も継続的に関与する人員の確保。
- 環境改善に取組んだ干潟一部のみでアマモ場の再生・保全未着手であったため、対象エリアの拡大。
- アマモ場の再生・保全が未着手でエコツーリズムが検討段階に留まったため、継続的な対応が必要。
- 当漁協の組合員の高齢化を踏まえた人材確保、安定財源確保。

令和の里海づくり

防府市藻場造成による豊かな里海づくり協議会

里海における藻場造成とアイゴ等の「磯焼け」対策&商品化による循環型経済の仕組みづくり

令和５年度「令和の里海づくり」モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

【資源】

- 海流と、周囲の山林からの豊富な栄養塩供給により、魚種が多く豊かな漁場が形成
- 道の駅「潮彩市場防府」は、地域の消費者に対する魚食文化の発信拠点として機能

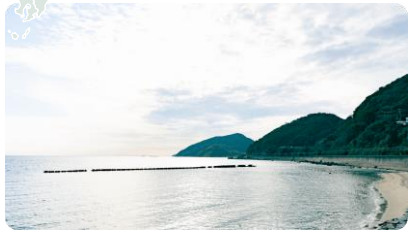
【課題】

- アイゴの食害が原因の一つと考えられる磯焼けが発生している地域がある
- 漁業者、住民等の藻場の重要性への認識・理解醸成

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

- 食害防除・藻礁設置による藻場再生保全
- 活動を応援・参画するステークホルダー確保
- 住民や周辺企業、漁業者の理解醸成・活動に関わってもらうきっかけづくり
- アイゴの商品化を通じた漁業者の収入源確保
- ブルーカーボンクレジットによる活動資金確保

防府市沿岸域
山口県防府市



R5年度モデル事業における取組内容および成果

藻礁の設置・モニタリング

- 「組み立て式鋳鉄藻礁システム」による藻場再生・定期モニタリング

【成果】

藻場再生に関わるデータを整理し、今後のモニタリング手法を検討するとともに、ブルーカーボンクレジット認証につながった。

アイゴ捕獲方法の開発

- 藻食性魚類アイゴをの効果的な捕獲方法や活用方法を考案

【成果】

地域のアイゴの動態について仮説を立てるとともに、漁業者が無理なく取り組める効果的なアイゴ捕獲方法が考案された。

アイゴ商品化

- 捕獲したアイゴの料理方法を開発及び商品化

【成果】

道の駅での試験提供や、料理人からの意見等を通じて、今後アイゴを商品化していくための目処をつけることができた。試作品の評価は好評であった。

エコツアー・セミナー

- 地域の里海の魅力や役割をテーマとしたエコツアーやセミナー

【成果】

当該テーマのエコツアーやセミナーに関心を持つ人がいることが分かった。

漁業者・企業・行政関係者・市民等の多様な主体と、活動を行っていくための体制の基礎を作ることができた。

今後の課題および取組方針

- アイゴの捕獲、加工、販売までの一連のプロセスを継続的に実施し、アイゴを食べる文化醸成と、藻の食害防止につなげていく。
- 漁業者・企業・行政関係者・市民等と、里海づくりに関する具体的なプロジェクトにおいて連携していくための場づくりを行う。

令和の里海づくり

おおつき里海づくり協議会

森川里海を一体として捉えた藻場再生と地域資源の好循環形成

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

【資源】
- 足摺宇和海国立公園
- 多種多様な海洋生物と多様な海産物を使った郷土料理
- 世界有数のダイビングスポットであり、シュノーケリングやクリアカヌーでも豊かな海中景観を楽しめる

【課題】
- 磯焼けによる藻場の減少
- 漁業資源の減少・漁獲物の変化
- 漁業と海域環境の保全の両立

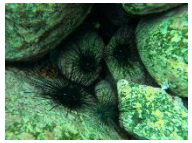
保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

- 食害生物駆除と母藻設置による藻場の保全再生
- アオリイカオーナー制度等の継続による住民や漁業者の理解醸成や連携強化
- 郷土料理(ところてん等)づくり等のコンテンツの活用
- 柏島の海への関心や愛着の醸成

R5年度モデル事業における取組内容および成果

藻場再生活動の実施

- 藻場の分布状況把握と再生活動



【成果】

藻場の分布状況等を把握し、再生活動としてスポアバックによる母藻の設置を行った。また、食害生物が多く確認された海域を対象に食害生物の駆除を定期的に実施した結果、海藻の広がりを確認することができた。

地域資源の活用検討

- プログラム・コンテンツの開発

【成果】

柏島の海の魅力を体験・実感してもらうためのエコツアーを実施した。また、郷土料理を活用した新たなプログラムを開発するため、ワークショップを実施し、課題と対応策を検討した。

普及啓発ツールの作成

- 柏島での里海づくりをまとめた冊子の作成

【成果】

里海教育読本として、出張授業等の教材としての活用も念頭に、生物多様性の宝庫である柏島の現在と過去を紹介するとともに、これまでの柏島での様々な里海づくりの取組等をまとめた冊子を作成した。

シンポジウムの開催

- 都市と地方の交流を目的としたシンポジウムの開催

【成果】

都市の人々の里海づくりへの関心を醸成するために、都心部でシンポジウムと交流会を開催した。参加者は70名ほどとなり、取組を知ってもらうだけでなく、多くの意見を頂くことができた。

今後の課題および取組方針

- 柏島の里海づくりのシンボルとして、テングサ、アオリイカ、シラスの3つを採用し、これらを中心に里海活動をより分かりやすく広げる。
- 様々なネットワークや行政とも連携して活動が維持できる体制を構築する。
- 里海を維持していくための人材育成を目指して、まずは海や海の生き物に興味を持ってもらい、好きになってもらうために、様々なコンテンツの開発・実施を行う。

令和の里海づくり

宗像市

藻場の創出・保全と民間資本の活用等による好循環モデル形成の検討

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

環境省

地域の概要及び課題

【資源】
- 玄界灘に位置する日本有数の豊かな漁場
- ウニやアワビのほか、トラフグやアジ、アナゴ等が特産
- 海域内の沖ノ島が「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の構成資産の一つとして、ユネスコにより世界文化遺産に登録

【課題】
- 磯焼けによる藻場の減少
- 漁業者の高齢化と担い手不足
- 地域の魅力向上

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

- ウニ駆除と海藻増殖施設設置による藻場の保全再生
- 多様な活動主体とのコミュニケーションの機会の形成
- 環境学習等を通じた宗像の海や漁業の継承
- 駆除ウニの畜養等による有効活用
- ブルーカーボンクレジット等による活動資金確保

R5年度モデル事業における取組内容および成果

藻場の創出実証試験

- 現地状況を考慮した増殖施設の検討

【成果】

福岡県の技術指導により「ノリ網方式」でのアカモクの増殖施設を設置することとした。また、磯焼けの状況や施設設置が可能な場所、施設設置の効果が期待できる場所等について宗像漁業協同組合に相談し、設置箇所を決定できた。

増殖施設の設置

- 4地区に増殖施設の設置

【成果】

植食性魚種による食害の影響を考慮し、水温が低下した12月以降に増殖施設を設置した。また、一部の地区では、地元中学生にもアカモクの種苗の取り付け体験をしてもらい、環境教育として実施できた。

モニタリング調査

- 増殖施設に設置したアカモクの生長と海底の状況確認

【成果】

増殖施設に設置したアカモクが生長していることを確認できた。周辺での海藻類の生育状況や食害生物の生息状況を把握できた。

好循環形成ビジョン検討

- 漁業者から希望者を募り、意見交換会を開催

【成果】

ウニ駆除や藻場の増殖方法の改善、活動費用の確保、次世代への継承等様々な課題を共有でき、今後の計画を取りまとめることができた。

今後の課題および取組方針

- 活動主体となることが期待される漁業者や市民活動団体等、様々なステークホルダーが共通の課題意識やビジョンを持った体制構築を目指し、意見交換などコミュニケーションが図れる機会を形成する。

令和の里海づくり

NPO法人 賀谷藻場保全会

里山・里海の水循環回復による藻場再生と普及啓発・産品販売の仕組みづくり

令和５年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果

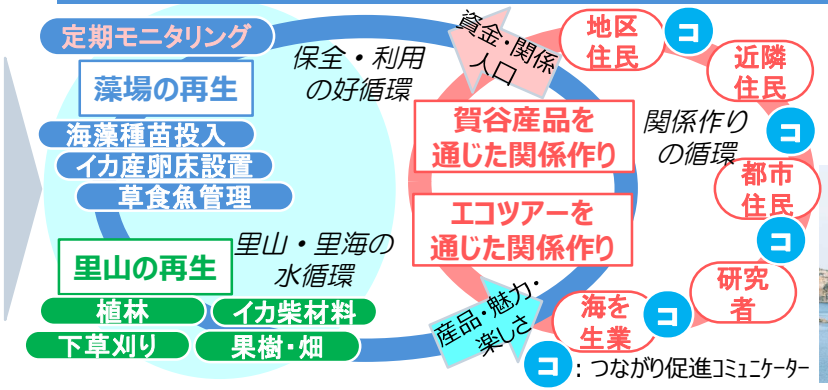
環境省

地域の概要及び課題

【資源】
- 対馬海流（暖流）の影響を強く受け、栄養塩類が多い豊かな漁場を形成
- ツシマヤマネコなど対馬固有種も多い固有生態系を育む他、
- 複雑な海岸線が続き山と海からなる雄大な自然風景

【課題】
- 賀谷を含む対馬沿岸部全域で藻場消失が深刻・進行中で海洋生態系に及ぼす影響と漁業従事者に甚大な影響
- 水循環回復に向けた順応的管理の継続化

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン



対馬市賀谷地先
長崎県対馬市

R４～5年度モデル事業における取組内容および成果

定期モニタリング・順応的管理

- 定期的な藻場モニタリング調査（健全な水循環回復に向けた順応的管理）

【成果】
専門家と連携した定期的モニタリングにより継続的にデータを蓄積し、再生手法の有効性を検証しながら実践する基盤を形成できた。

里山・里海の循環回復

- 【里山】植林、下草刈り、生産
- 【里海】カジメ種苗投入、アオリイカ(海藻食害魚捕食)産卵床設置

【成果】
定期モニタリングと組み合わせて、順応的管理による藻場保全・再生活動の継続的実施体制を確立できた。里山・里海の産品作りにもつながった。

エコツアー受入による関係作り

- モニターツアー等による好循環形成に向けたエコツアー開発
- 普及・学習プログラム・ツール開発

【成果】
賀谷地区や保全活動への関係作りに向けた普及啓発、環境学習、エコツアー(体験)の受け入れのためのプログラム・ツールを整備・開発できた。

賀谷産品を通じた関係作り

- 好循環形成に向けた賀谷産海産物の商品開発・販売体制検討

【成果】
強い支持層を引き付けて活動を応援する関係人口を創出し、無理しすぎず継続するマイクロ好循環の仕組みとして賀谷産品販売体制を形成した。

今後の課題および取組方針

- 藻場再生には地道で継続的な活動とその基盤が必要であり、取得データ等をもとに効果的な再生へ繋げていくことが今後の課題。
- 負担を一部の人に集中せず金銭的・気持ち的に無理なく活動できるよう、関係人口とのネットワーク化を活かした仕組みをつくっていく。